



アポロンの泉水

大運河終端から宮殿方向
遙か彼方に王の道と宮殿

アポロンの彫刻—アポロンの泉水



大運河の生け垣

めに4頭立ての戦車を駆って空を飛ぶ彫刻が中心に、その回りには海の嵐を制御する4人のトリトンと4匹の海獣。その後には3本の高い噴水。

宮殿からは水庭の遠く向こうにアポロンの泉水、そして大運河が見渡せる。

3.4 大運河

アポロンの泉水の西で長さ1.5kmもあり、幅が62mの広大なもの。水深は1.8m。1667年から11年かけて建設された。かつてはヴェニスから贈られたゴンドラなどが浮かんでいた。大運河には側道があり、道の両側の背が非常に高い並木は刈り込まれて一直線に続く大きな生け垣になっている。

大噴水の一番奥まで行ってみたいくなるが、十字の形をしていて横に600m行ったり来たりしなければならぬので距離は2倍近くなり、そこまで行く人は地元のジョギングする人くらい。筆者は大運河のはじまりのところでレンタサイクルを借りることにした。ここはパスポートを預けなければいけないため非常に不安であるが、運河の一番遠くやトリアノンを回ることも

できた。園内の交通はほかにトリアノンを回るミニトレインや電動カートがある。

3.5 水庭の北

水庭の北は通路を挟んで対称形で並んだ噴水が一つずつある花壇になっていて、その先にピラミッドの噴水がある。ルイ14世の居室から見えるところであったので、注文も多かったのだろう。その北には、水の散歩道があり、ピラミッドの噴水から北にドラゴンの噴水まで降りていく。緩い坂の道の両側には刈り込んだ樹木と子供の彫刻の上にある水盤から吹き出る噴水の列が並んでいる。坂の両側は木立の区画になっていて、東側は凱旋門の木立、西側は3つの噴水の木立と呼ばれ、階段状の壇毎に3種類の異なる噴水が配置されている。

水の散歩道を降りたところに円形のドラゴンの泉水があり、口から高い噴水を上げる竜とそれを支える4頭のイルカ、またそのまわりに白鳥に乗った4体の天使の彫像がある。その北側に広いネプチューンの泉水



ピラミッド噴水

でつくられたすり鉢状の傾斜の八つの段から多数のカスケードが流れ、下からは噴水が噴きだして相当の水量になる。カスケード反対側の芝生斜面は楽団の演奏が行われるところ。この噴水は1683年にできあがり、ル・ノートルの最後の作品と言われている。

3.7 列柱廊の木立

王の道南、アポロンの泉水のすぐそばにある。円形の列柱廊の下に32の噴水付きの大理石水盤が置かれている。1679年。

3.8 鏡の泉水

南側2列目にあって、噴水池が通路に接してあり、一辺の木立がなく、通路から池の噴水を見ることができる。ここは現代技術で改装され、音楽に合わせて噴水が踊るようになっている。

3.9 オランジェリー

オランジェリーは南方のオレンジ等への願望から寒い国でも見ることができるよう温室を設けるもの



水の散歩道
道の両側に噴水列



列柱廊の木立

がある。ルイ14世のとき未完成で、ルイ15世の時代にできあがった。

3.6 舞踏場の木立

ラトナの泉水のすぐ南の木立にある。ローマの円形劇場を模し、大理石やマダガスカルから運ばれた貝殻



舞踏場の木立



鏡の泉水

で、西洋庭園の定番の一つとなっている。ヴェルサイユでは水庭の南につくられ、ヴォー・ル・ヴィンコントから接収した数百本のオレンジが運ばれた。

1200の植木鉢（ルイ16世の頃は3千もあった）にオレンジなどが植えられ、冬に建物内にしまわれる。

3.10 スイス人の池

1678年にはじまったものでスイス傭兵が従事させられた。沼沢地を掘削し、戦争の中断はあったものの15ヘクタールもの広さの池が1688年にできあがった。水庭、スイス人の池、大運河などの広い水面は、宮殿内の高価だった鏡の間のように、建物や景色を水面に映す水鏡として考えられたようである。

3.11 トリアノン

大運河北端の近くにあって、その名称はルイ14世が買収した、もともとあった村の名前からきている。14世は建築家マンサールに命じて、バラ色の大理石を使った優美な列柱回廊がある大トリアノンをつくらせた。14世の頃は宮殿の花壇は多数の美しい花が咲いていたという。花は頻繁に植え替えられるなど手がかけられていた。オレンジの木も冬はガラスを使った冬囲いがされていた。

少し北にある小トリアノンはルイ16世からマリー・アントワネットに贈られたもの。ヴェルサイユ宮殿から相当遠いため小さな客車をいくつかつないだミニトレンのプチトランが宮殿、大トリアノン、小トリアノンの間を頻繁に走っている。

マリー・アントワネットは小トリアノンの北に、王



王妃の村里

妃の村里というノルマンディ風の村をつくった。煩わしい宮廷の窮屈さから逃れて、家族や親しい友人と過ごしたり、動物とふれあうのを楽しみにしていた。1783年から3年の間に小さな農家風の建物が建てられ、中には水車小屋もあり、池も掘られた。これら池と回りの庭園は幾何学的なフランス庭園と異なり、和風庭園や英国式風景庭園のような自然な形をしている。

参考

1. The Sun King's Garden IAN THOMPSON BLOOMSBURY
2. Walks in the gardens of Versailles Alain Baraton Publicestablishment of the museum and national estate of Versailles
3. ヴォールヴィコント SCALA ISBN : 978-2-86656-402-5